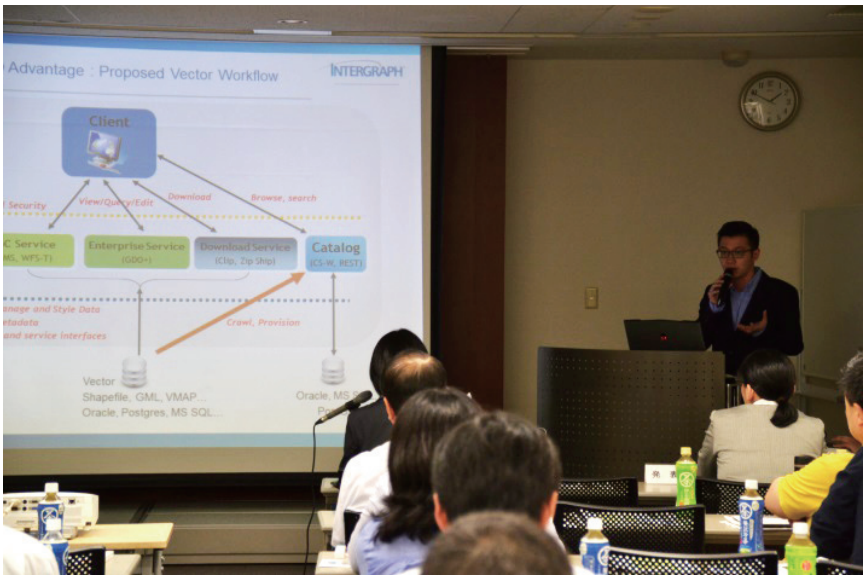
環境モニタリング研究で活用されるERDASソリューション

7/23 ERDAS Forum 2013

7月23日、ダイヤモンド社石山記念ホールにおいて「ERDAS Forum 2013」（主催：パスコ、日本インターグラフ）が開催された。今回が4度目の開催で、各種ERDAS製品（ERDAS IMAGINE,LPS,APOLLO等）の最新情報とロードマップ、またERDASを活用した研究事例などが紹介された。



テクニカルセッション

昨年に続き、Jonathan Lee氏（IntergraphAsia）が「Intergraph Geospatial 2014ロードマップ最新情報」、「人道支援及び災害時の救援活動」と題して、ERDAS製品の次期バージョン最新情報と災害時人道支援ミッションのためのソリューションを紹介した。なお、次期バージョンではIMAGINE/LPSの一部モジュールに対する64bit対応、Unicode対応などを予定しているという。

またこれらERDASのソリューションを活用していくことで、画像分類、幾何補正、差分抽出、LiDAR解析、レーダー解析、データ結合やカタログ化・配信などの様々なフェーズで、地理空間情報アナリストが陥りやすい困難な状況に適確にマッチし、その技術的困難の克服をサポートできることを示した。

ユーザーセッション

ERDAS利用事例として、酪農学園大学の金子正美氏と新潟大学の村上拓彦氏が講演を行った。

金子氏は大学におけるリモートセンシングとGISの教育カリキュラムを紹介。またこれらの技術を応用したエゾシカの生態研究や、山岳生態系における植生変動の定量化に関する研究など主に環境分野における事例を通じて、異分野の情報を重ね合わせることで新たな情報を生み出せるマッシュアップの必要性とその発展に期待を示した。

村上氏は、森林分野における写真測量ソフトウェアの活用事例を紹介した。樹高推定や樹種分類等におけるデジタル空中写真を用いた海岸林モニタリングの有効性を示しつつ、持続可能な森林管理のため、変化抽出を通して境界情報や樹齢情報を得る上で時系列空中写真が有効であることを強調。中でも、過去に取得されたの空中写真は貴重な情報を得られる宝の山だと語った。

サービスセッション

最後に、インターグラフとパスコからERDAS製品及び衛星関連ソリューションの紹介があった。インターグラフからは教育機関向け新プログラムやモバイル・ソリューションなど新たにリリースされるという。またパスコからも地上SAR＆レーダー、AIS（船舶モニタリングシステム）など新商品の説明があった。

（報告：日本インターグラフ株式会社 小林直樹）